

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900254		
法人名	医療法人社団沖田内科医院		
事業所名	グループホームさくら 陽だまりユニット		
所在地	島根県浜田市金城町七条ハ564番地1		
自己評価作成日	令和2年5月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosoCd=3271900254-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和2年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事やお茶の前、外出後は石鹸での手洗いに加えアルコールでの手指消毒を習慣とし感染症等の予防や一人一人の健康に配慮しています。
 寝たきりにならないよう筋力保持の為に役割を持って頂き、出来ることで無理なく動いていただける声掛けを実行しています。言葉使いにも気をつけるよう努力し、個々、興味のある話題の提供に努め、笑顔を引き出せる声掛けを心がけています。嚥下体操やラジオ体操も一日の流れの中に取り入れ行っています。また中庭に草花をおいたり、メダカを飼ったりと利用者と共に楽しんでいます。体調に変化があった場合早めに医師に相談する体制にもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体う沖田内科医院が隣接しており、利用者も方全員がかりつけ医とされ医療面でも本人、家族は安心されています。
 管理者、職員は認知症をよく理解され利用者がその人らしく生活が出来るように心掛けておられます。また、家族の面会やボランティアも積極的に受け入れられています。
 利用者の表情は明るく、職員と一緒に食事の配膳や洗濯物たたみ、畑の草取り等、それぞれの役割を持ち生活されています。天気の良い日は庭に出て日向ぼっこをされたりホームの畑を見に行ったり穏やかに過ごされています。
 「新型コロナウイルス」の感染防止のため細目な換気や「密集しないよう」利用者同士との距離をとり生活をされています。利用者、職員は手洗いや手指消毒液を使用し感染防止が行なわれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を作成し、それに基づき実施している。毎週月曜日に朝礼にて理念を確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。	毎週月曜日の全体朝礼で運営理念・ケア理念を唱和されています。職員は名札の裏に運営理念・ケア理念を記載され携行され、理念に基づき日々実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会とホームで交流行事を行っている。昨年夏、保育園児の交流も出来た。日頃お世話になっている薬局などに手作りおやつを配ることも出来た。	地域の老人会ボランティア、保育園との交流、ちまき作り、窓拭き、畑仕事を行われ交流されています。お世話になっている薬局などに手作りちまきを配られました。4月の敬老会、春の家族会は「新型コロナウイルス」感染防止のため中止となりましたが、地域の方々との交流は継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春の親睦会(家族会)は新型コロナウイルスの為、開催ができなかった。秋は敬老会を催し地域の高齢者を招き演芸や茶話会を行い利用者と共に楽しんでいただく機会を昨年同様作っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、サービスの実際について外部の目で助言をいただいている。	2ヶ月に1回開催されています。現況報告、行事予定、利用者状況、職員研修の報告等意見交換をされサービスに活かされています。3月、5月の会議は「新型コロナウイルス」対策として書面開催とされました。法人施設、グループホームで感染対策の継続の説明、周知されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員である支所の保健師と事業所の実情や取り組みを運営推進会議を通じて報告、相談している。	運営推進会議に支所の保健師さんが参加されています。事業所の実情や取り組みを報告、相談され連携を図られています。「新型コロナウイルス」の対策、対応について情報をもらわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は鍵をかけない様になっている。身体拘束適正化委員会を3か月に1回開いている。	身体拘束適正委員会を3ヶ月に1回開催され、全体会議等で全職員に会議内容を周知されています。日頃から職員間で身体拘束をしない方法やスピーロックについて話し合わせ、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれています。日中は玄関の鍵をかけないようにされ利用者の様子に気を配りケアが行われています。スピーロックがある時は、管理者の指導や職員間で話し合われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待は見受けられないと思うが言葉使いなど、注意をはらい気をつけていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し了承を得たうえで、契約している。また、制度改革がある場合再度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に表される機会はあるが、外部者にはそのような機会は少ない。また家族会、利用者への面会等、運営推進会議等に家族メンバーを加える事で機会を設けている。	苦情相談窓口、担当者も設置されています。家族会、利用者面会時に意見・要望等を聞いておられます。運営推進会議にも家族代表に参加頂き、意見・要望を頂く機会が設けられています。家族会や個別の意見等を職員会議等で検討し運営に反映させています。面会が少ない方等にはお便り送付で利用者の様子や行事等知らせし、電話等で要望等を聞いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで随時意見は出されており、ユニット内で解決出来ることは随時解決し、出来ない場合は両ユニットの全体会議で話し合ったりしている。	毎月の各ユニット会議や全体会議で意見や提案を聞き検討されサービスに反映されています。ユニット内で解決できる事は随時解決されサービスに反映されています。新型コロナウイルスの対策、対応が行なわれています。法人会議に管理者は参加され提案、要望等話すことができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績等の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する老健に準じた年間計画はある。研修がある時は希望をとり、交代で参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの間に本人を交え思いを聴く機会を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまで家族等の思いを聴く機会を必ずつくり見学に来て頂くなど不安等を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援を利用しただけのような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話やスキンシップを密にして、出来ることを手伝っていただく事で共に暮らすことに意識を持ち学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助や衣類の調整、外泊など色々な場面で家族へ相談し協力をえることで一緒に支えていただけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族や生活歴を話題に取り組み大切にしてきた馴染みの人や場所が途切れないようにしている。感染症対応があり面会が難しい為電話での支援になっている。	家族や本人の生活暦を日ごろの話題にし馴染みの人や場所が途切れないよう取り組まれておられます。家族や親戚、友人等の面会時にはゆっくり過ごしてもらい家族等の関係を大切にされています。ユニット毎に利用者を理解されかかりつけ医受診時や敬老会、家族会、買い物等行われ馴染みの人や場との関係継続の支援が行われています。	関係継続支援が行なわれた場合には、可能な限り、利用者の方の多くお話して頂き、顔衣双方に繋げられると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	強制せず利用者同士が関わり合えるよう声掛けに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者はいませんが、家族のボランティアがあり大切にしている。また退所後も他施設と連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動、表情を観察し一人一人の思いを把握するように努めている。	日々の行動や言動、表情を汲み取り一人ひとりの思いを把握されています。一人ひとりの思い暮らし方の希望、意向を本人、家族等に確認されながらケアプランに取り入れられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話の中から経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の健康状態、出来ること等の現状を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて介護計画の見直しを行い、それぞれの意見を反映した介護計画書の作成に努めている。介護計画書にある項目を個人日誌に掲げチーム皆で確認していける仕組みになっている。	ケアプラン作成に伴い各ユニットで課題やケアについて本人、家族等の気付きや意見、アイデアを話し合い、検討され計画作成者がケアプランを作成されています。個人日誌にサービス内容の記録をされチームで共有されています。評価は6ヶ月に1回実施されています。定期的にケアミーティングを実施されています。状態に変化があったときは見直し、プラン変更が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録するための日誌に日々記入し情報を共有し同一の介護ができるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常であれば利用者や家族が希望すれば外出や外泊がいつでも可能である。通院介助も家族の付き添いができない時などはホームで対応している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜の時期にホームの庭でお花見をしたり、昨年はドライブを兼ねて海の近くのレストランに行き、みんなで昼食を楽しむことができた。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、家族に希望を聞き 適切な医療を受けて頂くよう支援している。	サービス利用開始前にかかりつけ医の希望の確認を行われ利用者全員、母体の沖田内科医院をかかりつけ医とされています。本人、家族は沖田内科医院がホーム近くにあること、夜間でも連絡し指示等あり対応されるので安心されています。歯科、眼科、整形等他科受診は家族が同行受診されます。家族が出来ない場合は職員が対応されています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談をし早期に退院できるように努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医等と話し合い全員で方針を共有している。「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいる。	入所時に重度化や終末期に向けた方針の説明をしておられます。重度化や看取りが必要になった時は本人、家族、かかりつけ医と話し合い対応方針を共有されます。対応が可能な事・困難な事・不安な事等を職員間で話し合い家族や医療機関等と連携されながらチームで支援されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設医療機関の協力の元実践力を身に付ける努力をしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回消防訓練を行っている。水、缶詰、米の備蓄の準備あり。	年2回消防訓練が行われています。マニュアルを整備されています。初期消火、避難誘導、消火訓練が行われています。グループホームにはADEは無いので併設老健さんかより借りて来られます。地域の消防団に非常災害時の連絡先に登録依頼をされています。備蓄は水・缶詰・米を準備されています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシー確保に努めている。	年1回法人内の接遇研修に参加されています。研修後は言葉遣いに注意し一人ひとりの尊重とプライバシーの確保・改善に取り組まれています。誇りやプライバシーの確保と個人情報の漏洩防止について職員会議や朝礼で周知、徹底に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話しかける選んでいただくなど、自己決定していただけるような声掛けで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし可能な限りの希望にそような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類で清潔な衣類を身に着けていただけるように努めている。希望があれば散髪等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、配膳、片付けなど一人一人の力を生かしながら一緒に食事を楽しんでいる。	利用者と一緒に献立を考え調理をされています。食事の準備、片付け、食材切り、配膳、味見をしてもらう等一人ひとりの力を活かし職員と一緒に行われています。職員は利用者と一緒に食べられ季節の話等会話を楽しまれています。食事前には利用者、職員は手洗いや手指消毒液で感染防止を行われています。「コロナウィルス」対策として、家族と外出をされ食事をされる事や、春の家族会の食事、地域のレストランでの外食等中止とされました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して何度も水分補給の場面を作っている。(一人一人の水分量を記録し把握している)。栄養摂取に対しても一人一人の状態を考え食べていただけるように工夫している。殆どの利用者が10割摂取である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ 毎食後 口腔内洗浄の声掛けを行っている。定期的に入れ歯洗浄剤を使い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じトイレ誘導など声掛けをし失敗を減らし不潔にならないよう支援をしている。	利用者に応じた定時誘導や声かけを行われ失禁を少なくし不潔にならないよう利用者に沿ったトイレで排泄の支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食材選び、日々少しでも身体を動かしていただく様に声を掛けている。排便に対しチェック表を活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の健康状態を把握し本人の意向も取り入れ無理なく入浴を楽しんでいただいている。	週2回以上、午後入浴が行われています。一人ひとりの健康状態を把握し本人の意向も取り入れ、入浴を楽しまれています。拒否の方や抵抗される方は声掛けや工夫で週1回は入浴をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴、トイレ誘導するなど安心して気持ちよく休息していただける声掛け等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用 用法 用量について薬局より確認の用の紙を貰っており、職員皆が目を通し周知している。薬を渡す際には 本人の名前を確認後開封し手渡しし、内服の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を見つけ(ゴミ袋おり、落とし紙おり、トランプや花札、洗濯物干し、食材切り、ドライブ、パズル等)楽しみごとや気晴らしになるよう支援している。庭に畑もあり 草取りや収穫等 出来る範囲での参加をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関へ向かわれた利用者には外の空気を感じて頂くよう声を掛けている。家族の希望や協力の元 外出をされる利用者もいる。	玄関に向かわれる利用者には声かけや会話をされ外の空気を感じてもらおう支援をされています。天気の良い日は庭に出て日向ぼっこをされたりホームの畑を見たり、時季の野菜の収穫もされます。ドライブで花見に出かけられたり家族に外出支援を呼びかけておられます。「コロナウイルス」対策として、スーパーの買い物や家族との外出、季節の外出等中止をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を持っておられる方は0名。必要な物品があれば一緒に出かけ、出かけられない場合は職員が購入後レシートで精算している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親子での手紙のやり取りを支援している。電話を掛けたい利用者へは支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す飾り付けや、心地よく過ごせるように、カーテン等を利用している。不快な音が出ないよう隙間にテープ等を使用し防音対策に努めている。	共用の空間には季節を感じられる飾り付けをされています。食事の時間はテレビを消し職員と会話を楽しみながら食事をされます。不快音が出ないよう隙間にテープ等使用し防音対策をされ居心地よく過ごせるような工夫をされています。ペランダではめだかが飼っており利用者が餌やりされます。「新型コロナウイルス」感染防止のため 共用空間や居室は定期的な換気を行い、エアコンで温度管理をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を廊下に置いている。利用者は思い思いに自分の居場所をつくり過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が家庭で使い慣れた物や好みの物を持ってきていただくように家族にお願いしている。	居室は使い慣れた家具やテレビ、仏具、衣類、好みの物を持ち込まれ過ごし易く工夫されています。居室、トイレ、廊下等必要な場所に手すりを設置されたり、手作り歩行器や滑り止めつきの靴下をはかれる方もあり転倒を防ぐ等対応されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、廊下等必要な場所へ手すりを設置したり、歩行器の使用等の工夫をしている。居室へ案内するための目印や居室入り口や食堂の椅子に個人名を入れ混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		